

地元の話あれこれ 知ってみればこんなこと

< 1 > もねの里とは何ぞや？

千葉県四街道市は、「北：成田山道 南：千葉道 西：船橋・東京道 東：東金道」と四つ方角への街道が走る所で、これが地名の由来となった。現在の四街道駅からわずか歩いたところにある交差点が、その由来の道になる。わかりやすく、味がある「四街道」という地名が気に入っているのだが……。四街道市には不思議な町名が沢山有る。その中の多数は私の好みからはほど遠いもので、何故あってこんな名前の町を作ったのかと、首を傾げてしまうものもある。

中でも私が最も首を傾げるのは「四街道市もねの里」。JR総武本線物井（ものい）駅の西側に広がる宅地分譲地で、「もねの里」と名付けて販売が開始された頃に見た広告や看板にはモネの睡蓮の絵などがあしらわれていた。

そして、分譲地に住宅が建ち始める頃には、このあたり一帯の住所が「もねの里」と名付けられた。この町に住んでいない者が歯ぎしりすべき問題でもないのだが、モネの絵を思い浮かべつつ「もねの里」という町名を口にすると、違和感を通り過ぎた「おかしさ」が出てくる。

他人が住む町の名前に一喜一憂するのも馬鹿げているなど、ふと我に返った後のある日のこと、四街道市の百年の歴史を語る写真集に出くわした。この本の一隅の文章が、すべてを解決してくれた。

物井という土地は今では四街道市の一部となっているが、昔は物井村と言った。正式な読み方は「ものい」だが、古くからのこの土地の言葉では「もねえ」と言っていたようだ。

（現在の四街道市もねの里の地図はこちらから <https://yahoo.jp/pe9wlz> ）

< 2 > 船橋の地名の由来

船橋市内を流れる二級河川海老川は、今では三面貼りの暗渠の中を流れるようなさほど大きくもない川だが、その昔は川幅もあり立派な川だったらしい。河口付近で対岸に渡るために船を並べて板を渡した橋が架けられていたことから「船橋」という地名が誕生したと言われている。

京成本線の大神宮下駅から千葉街道を北西に向かって数分歩くと、その橋があった場所がある。

現在は川を跨ぐ立派な橋が架かっているが、昔の風景を想像してみると面白い。

この橋の名は「船橋橋」と言う、唾が飛び散るような名前の橋。

橋のたもとの信号機には「船橋橋 Funabashi Bridge」と表示されている。河口に向かって右岸を歩くと、水辺に漁船が沢山係留されており各種漁具が散乱している。ここは船橋港の一番奥になる。

その昔「船の橋」があったという起源を考えると、現在の橋の名を「船橋」とするのが正しいような気がする。その場合の英語表記は「Funa Bridge」で良いのではないか。英語表記を和訳すると元の名前に戻ることが出来る。

ところが、「船橋橋」と名付けたので、英語表記も「Funabashi Bridge」となった。

ところが、「船橋橋」と名付けたので、英語表記も「Funabashi Bridge」となった。

ところが、「船橋橋」と名付けたので、英語表記も「Funabashi Bridge」となった。

*地図はこちらから

<https://yahoo.jp/78ci22>



< 3 > 弁天の池のルーツ

モノレールの千葉公園駅の横に池がある。付近の町名は「千葉市中央区弁天」なので、この池を弁天池と言う人もいようだが、正式名称は綿打池（わたうちいけ）という。

江戸時代に、作草部（さくさべ）村と寒川村の境界がこのあたりにあったことから、池はどちらの村のものかの争いが起きた。寒川村の綿打職人の太郎兵衛が、寒川村にあった弁天様の碑石を密かに動かしておいたところ、「碑石の位置から見て、池の帰属は寒川村」と裁定を下し決着が付いた。太郎兵衛の機転を称えて、池の名が綿打池と名付けられた。

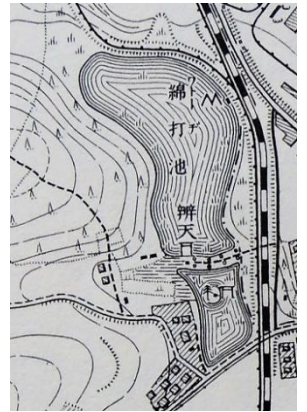
余談になるが……。美しく語れば「太郎兵衛の機転」ということになるのだが、彼の行為が悪意に満ちていたものだとしたら……。 「歴史は勝者が書くもの」ではあるが、「勝者が正義」とは限らない。このあたりに疑問が残ってしまう。

さて本題に戻るが……。大正6年の国土地理院の地形図を手に入れたので、この池を確認してみた。

池の名前は「綿打池」と書かれているが、「綿打」の横にカタカナで「ワトーチ」とルビが入っていた。地元の言葉ではこの池の名前は「ワトーチイケ」と言っていたのだ。

歴史の伝承という観点から見ると、「ワトーチ池」という名で残しておいて、その注釈・解説として「綿打池」とその名の起源について付記しておく、次の世代に引き継いでいく情報として生きてくるのではないかと感じた。

*千葉公園の地図はこちら <https://yahoo.jp/v0Dtv2>



以上